

①がくしゅうかだい（2ねんせい）



【こくご】おうちの人とけいかくをたてて、すこしずつすすめていきましょう。

＜べんきょうすること＞

◆「ふきのとう（きょうかしょ 18～23 ページ）」を学習します。

とうじょうじんぶつ

① 登場人物がしたことや言ったことをかくにんします。

② 「 」(かぎ) の文の読みかたのくふうをかんがえて、ノートやとりくみシートに書きます。

※くふうのりゆうになることばを見つけて、えらんだことばと読みかたのくふうを書きます。

③かんがえたくふうをいかして、音読（おんどくこえに出してよむ）をします。

◆「ふきのとう」の音読はっぴょうをおうちの人にむけてしてみましょう。

※おうちの人に、じぶんのくふうがつたわるように読んでみましょう。

◆「ふきのとう」で学習するよていのかん字を取組シートやノートにれんしゅうします。

＜保護者による関わり方のポイント＞

- ・P18 から新たな登場人物（竹やぶ、お日さま、はるかぜ）が出てきます。これまでの登場人物との区別やつながりが分かるようにお子さんと一緒に確かめてみてください。
- ・P19 から物語の様子が変化していきます。音読で、声の大きさや明るさなどに変化があった場合は、お子さんの読み方の工夫について、褒めてあげてください。
- ・「南をむいて」「せのびして」など動作で表すことができる表現がいくつかあります。文章に基づいて表現する姿があれば、大いに褒めてください。
- ・P21 の最後の行に「――」（ダッシュ）という表現があります。ふきのとうのどんな様子が思い浮かぶかお子さんに問いかけて考えてみることで、場面の様子の理解が深まります。
- ・新出漢字は、「読」「書」など、画数が多いものも含まれています。文字を正しく覚えるために、大きめに書くところから始めてもよいでしょう。慣れてきたら、マス目からはみ出さずに書くことを目標に、取り組んでください。
- ・お子さんが学習した様子を後から確認する場合、音読を聞いてあげてください。読み方で工夫したいところや理由を尋ね、工夫が表れていた時は大いに褒めてあげてください。

【さんすう】「※」はべんきょうするときの先生からのアドバイスです。

<べんきょうすること>

◆表とグラフ（きょうかしょ 13 ページと 14 ページ）

- (1) 家にある野菜の「しゅるい」と「数」を調べよう。

※調べるものは、野菜いがいのものでもよいです。たとえば、「くだもの」、「おかし」、「ぶんぼうぐ」、「本」など。

- (2) 調べた野菜の「しゅるい」と「数」を取組シートやノートにかこう。
※むずかしいばあいは、きょうかしょ 12 ページを見てみよう。

- (3) 表やグラフを見て気付いたことを取組シートに書き、おうちの人におしえよう。

- (4) 家にあるほかのものについても調べて、表やグラフに表そう。

※調べるものは1つだけでいいです。時間のある人は、いろいろなものの「数」や「しゅるい」を調べてみよう。

- (5) きょうかしょ 14 ページの「たしかめよう」①の問題をといてみよう。

<保護者による関わり方のポイント>

◆表とグラフ（教科書 P13、14）

- ・表やグラフは、この後の学年でも学習します。家の中にあるものを種類ごとに数を調べる活動を行い、お子さんが無理なく調べることを楽しめるように関わることが大切です。
- ・お子さんが、様々な観点から気付いたことを受けとめ、褒めていただきたいと思います。また、○がつながっていくと、3学年で学習する「ぼうグラフ」になります。